

次の文章は、作家の角田光代が映画『万引き家族』（是枝裕和監督）について感想を書いたものである。これをよく読んで、後の設問に答えなさい。なお、『万引き家族』とは、現代日本の社会問題を背景に、貧困状態にある家族が万引きを繰り返しながら生きる様子を描くことを通して、社会のひずみを映し出した作品である。

この映画を見ると、近年新聞で見た見出しや記事が次々と浮かんでくる。生活扶助費の削減計画、子どもへの貧困、児童虐待、年金不正受給。子どもに万引きをさせていた親が逮捕されるというニュースも、現実にあった。それらのニュースを見聞きしたときにわき上がる印象と、この映画が描き出すものは、しかし、ほとんど対極と思えるほど異なる。

祖母、父親と母親、母の妹、幼い男の子の五人家族が、古びた平屋建ての一軒家に住んでいる。ただでさえ狭い家にはごたごたものが置かれていつそう窮屈になり、一家はぎゅうぎゅうと密着して暮らしている。喧嘩が絶えないというのではないが、ものすごく仲のいい家族というわけでもない。ただ、なんとなく不思議な結束がある。

父親と息子は、日も沈んだ寒空の下、集合住宅の廊下に出されている女の子を見つめる。親からの虐待を疑った父親は、ついその子を連れて帰る。彼女はその日から男の子の妹になる。そのあたりから、だんだんこの家族の結束が何によってなされているのかが、見えてくる。

しいたげられる痛みを知る者だけが発信・感知できる、言葉に抛らない暗号を、彼らは共有している。また、その痛みを知る者だけが持ち得る強さで、彼らは彼らを支え合っている。それは善意でもないし正義でもない。同情ですらない。彼らには、他者を「助けている」という意識もない。ただ本能的に、手をのばしてしまっただけだ。

それらのことと、彼らが罪を犯すことはまったく矛盾しない。表裏のおなじことだ。善意や正義が彼らの行動原理ではないからこそ、罪を犯し、また罪を犯させることに躊躇がない。弱っている者に本能的に手をさしのべるように、自分たちが弱ったときには自分たち自身に手をさしのべる。寒さに震える子どもを連れ帰ることと、その子の好物を盗んでくることに、違いはない。

同じ鍋をつつき、花火の音に耳をこらし、絵本を読み聞かせ、家族旅行に出かけ、風変わりな一家は、ごく平凡な家族の暮らしを静かに送っている。その暮らしに次第に亀裂が入りはじめ、やがて家族は、彼らだけの完結した暮らしから、出ていかざるを得なくなる。

この家族が、言葉に抛らず共有している暗号を、当然ながら家族以外の他者は理解できない。理解できないものを、世のなかの人はいちばんこわがる。理解するために、彼らを犯罪者というカテゴリーに押しこめる。理解を超えたおそろしい事件が起きたとき、「心の闇」というような名付けを、すぐに見繕うように。そうして名付け、カテゴリーズすることによって、世のなかの人々は安心するのだし、自分とは関係のないことだと信じられる。もちろん私もそうした世のなかの一員である。幼児を虐待する親は極悪人だと思っているし、万引き常習犯は病んでいるのだろうと思っている。彼らが自分と——いや、自分が彼らと同じ人間だと思っことはこわい。だから線引きをせずにはいられない。

実際に起きた事件の見出しを見たときと、この映画の印象が対極くらいに異なるのは、だからだ、とようやく気づく。この映画は、そんな線引きをさせないからだ。私たちの生きているのと同じ世界に彼らがいる——彼らが生きているのと同じ世界に私たちがいる、と思わせるからだ。そのとき、見出しや記事にあふれている言葉が、他人ごとではなく私の現実になんかしくなだれこんでくる。

よく理解できないこと、理解したくないことに線引きをしカテゴリーズするということは、ときに、ものごとを一面化させる。その一面の裏に、側面に、奥に何があるのか、考えることを放棄させる。善だけでできている善人はおらず、悪だけを抱えた悪人もいないということ、忘れさせる。善い人が起こした「理解できない」事件があれば、私たちは「ほら、悪いやつだった」と糾弾できる。なんにも考えず、ただ、ただしい側にいるという錯覚に陶酔することができる。そんな、シンプルで清潔な社会への強烈な違和感がこの映画から立ち上ってくる。

作品のなかで、息子が音読するのは『スイミー』という物語だ。ちいさな魚たちが集まって大きな魚を模し、おなかをすかせた大きな魚を追い出すくだりが読まれる。大きな魚とは何か？ ちいさな魚とは？ 私はどこらにいるのだろう？ どちらにいるつもりになっているのだろう？ そこから何を本当に見ているのだろう？ 映画の世界が、終わった瞬間に私の現実そのまま流れこんできたような、そんな感想を持った。

（角田光代「理解できぬ世界は悪か カンヌ最高賞「万引き家族」」、

『朝日新聞 DIGITAL』二〇一八年六月八日）

【設問】

現代日本には、この映画が映し出すような貧困のほかにも、環境破壊や感染症、少子高齢化など、様々な社会問題がある。そうした社会問題の中から具体的な事柄を一つ以上取り上げながら、「その問題にどう向き合えば良いか、また、その問題に対してあなたにできることは何か」について、あなたの考えを書きなさい。解答は六百字以上八百字以内とする（句読点などの記号や空白も字数に含む）。